



## 国有林モニター会議を開催

### テーマは「古事の森づくり」



三月十三日、四国森林管理局において、「国有林モニター会議」を開催しました。

国有林モニターは、国有林野事業の運営等について幅広い国民の意見、要望等を聴取し、国有林野の管理経営に役立てることにより、開かれた「国民の森林」に相応しい管理経営に資するため、四国在住の二六名の方に委嘱しています。

会議は、四国の森林の現況、広報活動、アンケート調査結果及び平成二〇年度モニター実施計画及び平成一九年度に実施した「古事の森」づくりの概要について説明した後、モニターと意見交換を行いました。

モニターからは、

- ・三〇〇年の大木が文化財に活かされる。それを生み出す森林を国有林が継承し守っていくという「古事の森」の取組について、国有林だからこそできる制度であると感心した。

- ・古事の森を四国各県に一箇所ずつくってほしい。

- ・古事の森は一〇〇年単位で考えていくべきであり、次の世代に伝えていく必要がある。

- ・古事の森の現地には、宣伝と憩いの場を兼ねて、看板と東屋をつくってほしい。等の貴重なご意見、ご提言をいただきました。

この会議で出された意見等については、国民の森林としての管理経営について幅広い国民の理解の促進を図るため、今後の管理運営に活かしていくこととしていきます。

〈企画調整室〉



「グリーン四国」に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。



環境に配慮した植物性大豆油インキを使用しています。

保護林の現状評価と今後の管理を検討

【計画課】

二月二十八日、平成一九年度保護林モニタリング調査結果に伴う保護林評価のための検討会を森林管理局で開催し、学識経験者七名（その他欠席の二名からは意見聴取）と中山局長、川上計画部長、関係する森林管理署長らが出席しました。



シコクシラベの幼齢木（世代交代）が見られる鎗戸林木遺伝資源保存林内



この検討会は、平成一九年度の林野庁新規事業「保護林管理強化対策事業」として、平成一九年九月に制定された「実施要領」及び林野庁作成の「保護林モニタリング調査マニュアル」に基づき実施した保護林モニタリング調査の結果について、有識者が現状を評価し、体系的な管理の推進に必要な措置の検討を行うための開催したものです。

今回は、管内二五箇所の保護林の内、平成二〇年度地域管理経営計画等を策定する予定の計画区内の保護林を対象に、石鎚山系森林生態系保護地域（愛媛・嶺北署管内）、鎗戸林木（愛媛・嶺北署管内）、徳島署管内、白髪山林木遺伝資源保存林（嶺北署管内）、「土佐のてっぺん」郷土の森（嶺北署管内）の四箇所をモニタリング調査しました。出席者からは、

○保護林における施業の取組「白髪山」  
○モニタリング調査方法について「全体」  
これらの意見が出されました。保護林の評価及び今後の管理のあり方として、モニタリング調査報告書に盛り込むとともに、それらに基づき、平成二〇年度に策定する地域管理経営計画や今後のモニタリング調査の実施方法等の検討を行うこととしてあります。

農林連携  
くるまご座談会  
《企画調整室》



二月二十六日、当森林管理局の中山局長と中国四国農政局の岡局長の両局長が高知県四万十町を訪れ、前田四万十町長、甲把副町長、高瀬副町長ら役場幹部の皆さんと「農林連携くるまご座談会」四国農林業の明日に向けて」と題して意見交換を行いました。

四国の農林業は、少子高齢化の進行、海外農林産物の輸入等内外の厳しい経営環境に直面しており、これを克服し、活性化していくことが喫緊の課題とな

っています。このため、農林業の振興に尽力している第一線の市町村長から、行政上の課題等を現地直接お聞きし、今後の農林行政、国有林の管理経営の推進に資することを目的として、四国森林管理局、中国四国農政局のトップが連携してこの座談会を実施しました。

当日は、四万十町内の大正町森林組合集成材加工場におけるFSC森林認証制度を活用した独自の商品づくりの取組、低コストで崩れない四万十式の林内作業路網を使った森林整備の取組、地産地消を目指したグリーンアスパラ栽培の取組を視察した後、意見交換会となりました。

前田町長から四万十町の農業

の課題として、仁井田米、畜産、ミヨウガなどのハウス栽培が盛んであるが、米の生産調整、飼料や重油の高騰による農家の経営圧迫、野生鳥獣被害等があげられました。また、林業の課題として、四万十式の林内作業路網による森林の整備と路網作設技術習得のための全国からの研修生受入体制の整備、路網を活用したグリーンツーリズムの検討、十和地域の原木しいたけの復活等があげられました。

これらの課題について、活発な意見交換が行われ、岡局長から、国の支援策の具体的な活用方法を紹介するとともに、中山局長から、国有林としても四万十式の路網整備を推進しており民有林と国有林が連携して取り組むことなどが提案されました。

翌日は、ミヨウガのハウス栽培の取組などの現地を視察しました。

こうした座談会は初めての企画として実施しましたが、引き続き、同じような取組を進めていき、森林・林業の視点のみならず、農業の視点も踏まえた地域振興のあり方について検討し、国有林の立場としてどのような支援が可能なのかを考え、今後の国有林野の管理経営に活かしていくこととしています。